



平成22年3月25日

寝屋川市  
京阪電気鉄道株式会社

## 寝屋川市と京阪電鉄による連携企画

# 「びわこ号」復活プロジェクトをスタートします

～大阪と滋賀を直通で結んだ名車「びわこ号」を走行可能な状態に復活～

寝屋川市（市長：馬場 好弘）と京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：上田 成之助）は、京阪電鉄寝屋川車両工場に保存する往年の名車「びわこ号（60形車両）」を復活させる取り組み『びわこ号』復活プロジェクトをスタートします。

このプロジェクトは、寝屋川市が来年の市制施行60年の節目の年を控え、まちのイメージアップを図るため取り組んでいるブランド戦略「ワガヤネヤガワ・プロジェクト」の一環として行われるもので、大阪・天満橋と滋賀県・浜大津を特急電車として直通で結んだ車両「びわこ号」を市民の力で走行可能な状態に復活させ、地域資源として“ねやがわブランド”の確立に生かそうというものです。

京阪電気鉄道株式会社は、開業100周年を迎える今年、「環境の保全」「地域との共生」「社会への貢献」などをキーワードに沿線価値の向上をめざしており、寝屋川市の「ワガヤネヤガワ・プロジェクト」の趣旨に賛同し、『びわこ号』復活プロジェクトに取り組みます。

今後の予定としては、まずは車庫内での走行をめざした取り組みを進め、最終的にはイベント列車などとして京阪本線での走行をめざします。さらに、復活後は、お客さま感謝イベントや撮影会、関連グッズ販売など、寝屋川市民をはじめ多くの方に愛される車両として様々な場面で活用していく予定です。復活プロジェクトの枠組みについては、両者で復元に向けた課題や役割分担などについて協議を行い、平成23年3月を目途に明らかにしていきます。



寝屋川車両工場で保管されているびわこ号（60形車両）

## 「びわこ号（60形車両）」の概要

昭和9年、天満橋～浜大津間を72分で快走する直通特急として建造され、琵琶湖島めぐりやスキー船との連絡に活躍して、ご乗客の皆さまから「びわこ号」の愛称で親しまれた。

日本最初の連節車としても知られており、2つの車体が接するところに1台の台車をおいて両方の車体を支える仕組みになっている。京津線には半径の小さなカーブがあり、車両の幅や長さにかかなりの制限を受け、京阪本線からの高速大型車両の直通乗り入れ運転は難しいが、この連節車を応用することによって東山や逢坂の山越えなど急勾配でも急カーブでも円滑に運転することができた。また、屋根の上には2つの集電装置があり、京阪線ではパンタグラフを、京津線では当時ポールを使用していた。

なお、平成21年には「近代化産業遺産」（主催：経済産業省）に認定されている。

### 【びわこ号（60形車両）経歴】

- ・昭和9年3月 竣工
- ・昭和9年4月2日 天満橋～浜大津間、直通運転開始（運転時間72分）
- ・昭和21年9月 63号大津線へ移管
- ・昭和23年1月27日 61号大津線へ移管
- ・昭和23年10月1日 62号大津線へ移管
- ・昭和26年12月 天満橋～浜大津間に直通スキー列車運転（運転時分86分）
- ・昭和31年1月15日 浜大津～八幡町間に直通臨時列車「やわた」号運転  
初詣直通運転（石山寺または浜大津～香里園間）  
初午直通運転（石山寺または浜大津～伏見稻荷間）
- ・昭和35年頃まで
- ・昭和36年11月23日 浜大津～枚方公園間に直通運転「菊」号運転
- ・昭和42年12月 62号廃車
- ・昭和43年12月 61号廃車
- ・昭和45年12月 63号廃車
- ・昭和55年3月14日 開業70周年記念事業の一環として修復保存展示（ひらかたパーク）
- ・平成8年6月20日 2回目の修復工事完了
- ・平成12年1月28日 寝屋川車庫に搬入保存



昭和9年当時のびわこ号

## 「ワガヤネヤガワ・プロジェクト」(寝屋川市ブランド戦略基本方針)

地域主権が進む中、地域には自主性・自立性が求められています。加えて寝屋川市ではまちの情報発信力とともに、地域活力と行政施策の相乗効果を高めることが不可欠です。

こうしたことから、寝屋川市では、まちのイメージアップを図る部署として平成21年4月「ブランド戦略室」を設置し、大阪府立大学特別教授橋爪紳也氏をブランド戦略アドバイザーに迎え基本方針を取りまとめてきました。今後は基本戦略「ワガヤネヤガワ・プロジェクト」をもとに、みんなのまちに笑顔と自信を満たすことを目的に“ねやがわブランド”確立に向け、「びわこ号復活プロジェクト」の始動を含め、「香里園ブランド」の活用などさまざまなプロジェクトに取り組んでいきます。

以 上